

野田市の郷土史研究誌を頒布

～『野田市史研究』第32号を刊行～

野田市史編さん委員会(委員長＝鈴木有 野田市長)は、市史編さん事業の最新成果を郷土史研究誌『野田市史研究』(第32号)として刊行、100部を希望者に340円で頒布中。

◆『野田市史研究』(第32号)

【収録内容】巻頭雑感「『興風会九十年史』こぼれ話」

染谷 篤 (野田市史編さん委員会・副委員長 教育長)

補 遺 「『野田市史 資料編 古代・中世1』補遺1」

野田市史編さん委員会 古代・中世部会

研究論文「鈴木貫太郎記念館開館の経緯」

一貫太郎顕彰活動から記念館開館まで一

笹川知樹 (野田市教育委員会 生涯学習課 学芸員)

研究論文「葉煙草耕作の近現代(下)」

小川 浩 (野田市史編さん委員会・専門委員)

- ・『野田市史 資料編 古代・中世1』補遺1は、資料集の刊行(平成22年)以降に見られた史料、その後の研究の進展により判明した事実などから、下河辺荘・相馬御厨及び野田市域と領主に関する史料など58点を掲載した。

古代・中世部会の担当委員が収録すべき史料等を精査し、新たに確認した関宿中部出身の武士とも推測される「深栖(フカズミ)氏」に関する史料も多数採録。残る補遺史料については引き続き次号での紹介を予定している。

- ・「鈴木貫太郎記念館開館の経緯」一貫太郎顕彰活動から記念館開館まで一は、昭和20年4月に第42代内閣総理大臣に就任し、日本を終戦に導き、昭和23年4月に関宿町で逝去した鈴木貫太郎を顕彰するために建設された「鈴木貫太郎記念館」について、設立の契機となった「洗心会」の発足から、記念館建設までの経緯を、担当学芸員が関係史料を用いて本書で初めて明らかにした。
- ・「葉煙草耕作の近現代(下)」は、旧二川村西高野で昭和25年まで葉煙草耕作を続けていた農家の耕作許可証を分析した前号に続き、戦後の混乱期から、日本専売公社設立後の公社と煙草耕作組合との関係、市域の銘柄品種として広く知られていた「桐ヶ作葉」(通称：サクハ(作葉))のルーツにも触れた論考。

【体 裁】A5版、並製本、全156ページ

【頒布価格・部数】 340円(税込)、100部

【頒布場所】市役所2階・市史編さん担当、市内各図書館、郷土博物館

問合せ＝総務部 市史編さん担当 直通 04-7125-7802

代表 04-7125-1111 (内線 3220)

野 田 市